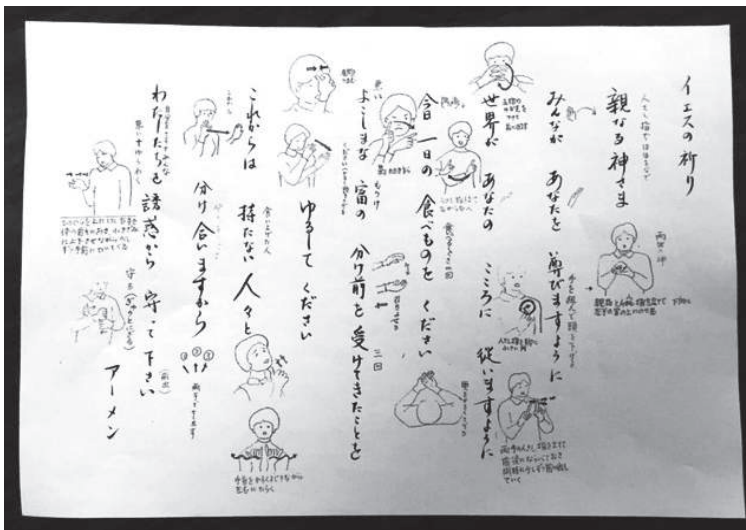


発行所 日本キリスト教団 なか伝道所  
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 203/205  
Tel. (045) 671-1109  
振替 00200 - 1 - 47369 E-Mail: naka@hb.tp1.jp  
http://w01.tp1.jp/~ja6694550  
発行者 堀江有里 (題字 松橋 順)

宣教方針  
① 貧しい人々への福音に共にあずかる。  
② 地域の問題に関わる。  
③ 諸教会に呼びかけてゆく。  
集会 主日礼拝 日曜日 午前10時30分より

## 「イエスの祈り」をふりかえる

30周年記念特集 〈「なか伝」を点検する〉第2回 発題 牧田祐子さん



三〇周年の節目に「なか伝」を点検するシリーズの第二回は、「イエスの祈り」について考えた。子どもから大人まで、多くの仲間にあざかるイエスの祈りには、なか伝のエッセンスが凝縮されている。今回はあえて、批判的にとらえ直す試みも行った。本音で語り合う中から、世間の価値観と経験の違いに気づいていく。今後も話し合いを重ね、目指す方向性が少しずつ、明らかになっていくことを期待する。

### ■そもそも、「祈り」とは？

二〇一七年は宗教改革から五百周年にあたる年でもあることを覚えて、はじめに讃美歌21の63番「天にいます父よ」(マルティン・ルター詞)を全員で賛美した。九番まで続く歌詞を五番までに割愛したが、現代の私たちにとっては、いささか長すぎ、眠気をもよおす。宗教改革者ルターは音楽への造詣も深く、自分たちの母国語で讃美歌を作り、会衆賛美の回復をした歴史に想いをはせる。

さて、祈りとは何か。wikipediaから抜粋すると、「神などの人間を超える神格化されたものに対して、何かの実現を願うことである」と定義される。実際に先人たちの祈り

を読んで、祈りが、神に頼んで何かをしてもらうためではなく、私たちが祈りを通して変わっていく、というところからあることを確認した。

祈りには様々なスタイルがある。ひとりです捧げる祈り、二〜三人で心を合わせて祈り合う、礼拝で代表者が捧げる祈り、そして定型の集団の祈りがある。集団の祈りの一つの形である「イエスの祈り」について、これから考えていく。

### 〈イエスの祈り〉

親なる神さま  
みんながあなたを尊びますように  
世界があなたのところに従いますように  
今日一日の食べ物を下さい  
よこしまな富の分け前を受けてきたことをゆるしてください  
これからは持たない人たちと分け合いますからわたしたちを誘惑から守って下さい  
アーメン

### ■「イエスの祈り」が

#### もたらした恵み

イエスの祈りは、イエスの足跡に従っていく、なか伝の歩みのなかで自然に生まれてきたという。聖書のマタイ六・九〜十三、ルカ十一・二〜四の箇所を読み比べて、Q資料を復元する試みから始まった。更に、英俊さん私訳として完成させたのが、「イエスの祈り」である。

イエスの祈りに出会い、なか伝への転会を決心する力をもたらすと話す仲間がいる。声の一部を紹介しよう。「前教会で唱えていた」主の祈りは教会で決まっている挨拶と違って、イエスの祈りは自分の気持ちとのズレやごまかしがなく、気持ちよく祈ることができた」発題者も全く同意見であり、共感する仲間が多いのではないかな。

イエスの祈りをきっかけに手話と出会い、障がいに関心を持ち、手話をもっと学びたいと話す子どもたち。声に出し、手話をつけることで祈りの世界が広がる

ことは、耳の不自由な方はもちろん、若男女を問わず参加しやすい。キリスト教徒ではない無神論者や寿に暮らす仲間にも分かりやすく、おおむね、好意的に受け止められていると考える。

## ■「親なる神」と

「よこしまな富」に物申す  
一方で、点検シリーズの使命として、あえて、批判的にとらえ直してみよう。

まずは冒頭の「親なる神」について。なか伝の特定の個人の方を想定しているのではないことをお断りしておくが、機能不全家族で育った方、例えばアルコール依存症の親に翻弄されたり、親から性的虐待を受けきた人たちを、想定してみよう。家庭で常に緊張を強いられてきた彼らにとって、神が自分の親のような存在だとしたら、祈る気持ちにはなれないだろう。実際に、なか伝に來ている複数の仲間が、「親なる」の一言に、恐れや、苦しさを覚えると告白している。かつて「父」を「親」と訳した、こだわりの一語であることを覚えて、今の時代に合った新しい訳語を探し出すことができるだろうか。

「よこしまな富」という言葉には、三十年前にフィリピンから帰国した直後の、英俊さんの体験、世界観が色濃く反映されている。なか伝には日本国籍を有しない仲間も多くおり、今とても苦しい状況に置かれている仲間がいる。だから、日本国籍を有する特権を忘れてはならないが、他方で、現在の若い貧困層の置かれた状況には、食うに困る貧しさと異質の、社会的、人的資源の欠落に注目し

たい。生活保護水準以下の収入でワンオペ育児に奮闘するシングルマザー、非正規雇用で働きながらネットカフェで寝泊まりする孤立した若者。彼らに「よこしまな富を受けてきた」という言葉はふさわしくないと感じる。私たちはいま、神の前に何を懺悔し、どう変わることを約束し、許しを乞えばよいのか。もう一度、問い直してみたい。

## ■変えるのを

ためらう必要はない：けれど  
学習会の中で、ある仲間から、「親」という言葉から想起される亡き父母の姿、尊敬と思慕の想いを聴くことができた。イエスの祈りを唱えるたびに温かい気持ちになると話す仲間は、日本中が貧しかった時代に、子どものために自己犠牲を払って育ててくれた両親の姿が、リアルに眼前に現れるという。親への反発や恐れ、乗り越えなければいけない現在進行形の課題を抱える若い世代が「親」という言葉に感じる体感とは、圧倒的な経験の違いがあると感じる。

今回の学習会を通して、「イエスの祈り」を点検する過程で、様々な世代の仲間の本音を聴くことができ、重要な一歩を踏み出したと感じている。

なか伝では4月から堀江有里さんを主任牧師に迎えて、新しい課題やテーマと出会って「家族」「コミュニティ」「セクシュアリティ」「天皇制」といった言葉に新しく出会って直している途上である。言葉は流動的で、常に新しい出来事にぶつかりながら、ふさわしい言葉を探し続けることが、なか伝らしい

やり方だと思ふ。変えるのをためらう必要はない。けれど、自分と違う経験や価値観を持つ仲間と、どう対話をして共通言語を作っていくのか、丁寧な話し合いを重ねて、皆にじっくりくる「集団の祈り」を探していきたい。

## ■イエスの祈りについて、提案

①礼拝ではいつも「宮さんを見本に」と司会者の方が言うけれど、もう十分に習得された仲間が沢山いるので、見本役は交替で、毎回違う人に模範を示してもらいたい。手話を覚えた人は、見本の人を見るではなく、神様を見ながら祈ろう。↓例えば、来年度は、イエスの祈りの見本をする係を設けてはどうでしょうか？

②初めてなか伝の礼拝に参加する人にとって、イエスの祈りを唱えながら手話をするのはかなり難しい。「週報の」ことを読みます」と声をかけたり、礼拝前に讃美歌練習と一緒にみんなでイエスの祈りを練習するなどしたらどうか。↓隣に座った人が様子見て声をかけるように各自で心がけましょう。

③こぼれ話として、礼拝の最後に、みんな輪になって歌う「キリストのへいわ」の二番の歌詞が生まれた経緯を伺った。一時期なか伝道所に出席しておられた隠退牧師の渡辺重夫さんが、キリストの平和は「心の」だけでなく「世界の」がほしいね、という提起をされ、それにみんなが共感して、そのまま、なか伝オリジナルの歌詞として定着したのだそう。↓イエスの祈りも、二版、三版を作ってみても良いのではないのでしょうか。

## ■学習会を終えて

ひとつの単語に込められた、お一人おひとりの想いや願い、祈りを、学習会を通して学び直すことができました。なか伝道所とイエスの祈りが、さらに成長していけるよう、みんな考えて、これからも知恵を出し合っていきたいと思ひます。(発題者・牧田祐子)

昨年十二月二八日～一月三日まで、「第四十四次越冬・冬祭り」が行われました。私は毎年医療班の手伝いをしています。寿医療班は、月に一度定例の健康相談をしています。特に、越冬期間中は医療テントが設けられ、様々な方が各地から支援に来てくださり活気づきます。昼夜を問わず看護師が常駐し、適宜医師が診察・投薬し、時には紹介状を書いて、年明けに受診がスムーズにできるよう対応しています。また、医療福祉職だけでなく色々な支援者が、相談に來た方の話を丁寧に聴いています。

一昨年は、寒い夜に動けなくなっている方が何人か運び込まれ、救急車に同乗することもありました。今回は比較的穏やかな医療班・テントでした。

パトロールでいつもお会いする路上生活の方が、炊出しに來たついでに寄つてくれたり、支援者との一年ぶりの懐かしい出会や、看護学生さんとの新しい出会いがあり、緊張の中にも安らぐ期間でした。なか伝のメンバーさんたちの立ち働く姿も嬉しく見えました。

支援する人、支援される人、たくさんの方との繋がりを感しました。ここに置かれたことに感謝します。

皆さん、越冬、おつかれさまでした！

(沓澤則子)

使信

# 洗礼者ヨハネとその群れ

堀江有里

民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひも解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」

ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民衆に福音を告げ知らせた。

(ルカによる福音書 三章一五、一六、一八節)

## イエスの先駆者として

ルカ福音書の著者は、イエスの宣教活動の先駆者として、洗礼者ヨハネを位置づけています。

誕生物語もそうです。マリアが予期せぬ妊娠を知ったとき、訪れた先はエリサベトのもとでした。一方で「不妊の女」という

レットルを貼られていたエリサベト、他方で結婚せずして妊娠したマリア。妊娠を知り、不安な気持ちのなかにあるマリアはエリサベトのもとをたずねることによってイエスを産む決意をしたようにわたしには読めます。

そして、このふたりの女性たちはそれぞれ男の子を産みます。その後、同じようにまわりの人びとに影響を与える人物になっていった男の子たちを。ふたりの母の姿が、少し先を歩んでいる洗礼者ヨハネと、その後活動を開始したイエスの姿として対比されています。

## ■洗礼者ヨハネの共同体？

ヨハネが活動していたのはヨルダン川のほとりでした。当時のユダヤ教において「洗礼」は「穢れ」を清めるための沐浴の様式でした。つまり「穢れ」があれば、何れ度も何度も沐浴して、からだを清めたのです。しかし、ヨハネはそんなに頻繁にやらなくともよい、人生に一度でよいと主張し、ヨルダン川での浸礼(しずめ)の儀式を行なっていたわけです。これは、当時のユダヤ教にとつて「正しく」はない姿です。つまりは、異端です。

ヨハネの働きを人づてに聞いた人びとが彼のもとを訪れます。おそらく、当時のユダヤ教のあるべき姿からはじき出された人びとだったのでしょう。もし日常に満足できていけば、あるいは居場所をみつければ、とができていけば、わざわざ日常を離れてやって来ることはないからです。かれらは日常とは隔てられた空間と時間を求めている

たのではないでしょうか。なにがしかの期待をもつて、です。

人びとはメシア(救い主)を求めていたと新共同訳聖書は示しています(三一・一五)。しかし実際には、本文には「メシア」などという言葉はありません。「人びとは待ち望んでいた」という記述があるだけで目的語はないようです。ともかく、人びとは何かを待ち望み、洗礼者ヨハネとその活動に可能性をみいだそうとしました。

彼の姿をとらえて、待ち望まれた人ではないかと人びとは述べます。しかし、ヨハネは否定します。集まつてきた人びとに対して厳しい言葉をさしむけています(二・七〜一四)。期待をもつた人びとにとつて、そこはけっして居心地のよい場所ではなかったはずなんです。そんなとき、人びとは、また自らを振り返り、あらたな居場所を求め、去っていったのかもかもしれません。

洗礼者ヨハネの共同体——わたしはこれまで、人びとが日常という所与のものではなく、わざわざ出かけていくことによって、選びとつたコミュニティをかたちづくっている姿を思い浮かべていました。しかし、人びとが留まつたとは描かれていません。また、ヨハネは自分よりも「もつと優れた」人が来ると宣言しているのです(三一・一六)。ここにかたちづくられていた群れは、はつきりと境界線をもって区切られるような「共同体」ではなく、「集合体」と表現できるような、流動性をもった、ゆら

## 幼稚園の田んぼに立ってるかかしを見て

なーとねえ

母 「ママ見てたかかしだよ」

母 「たかし??」

母 「ぞうたかし」

母 「これほかかかしだよ」

母 「えっ!! たかしだと思ってた」

かかしをたかしと聞き間違えた みうも歳。

ぎをもった場であつたのではないでしょう  
か。

## ■ 共同体の限界に立ち止まる

なぜ、わざわざ「共同体」に問いをさし  
はさむのか。教会という群れもまた、わた  
したちが選びとつたコミュニティ（共同  
体）なのに——そんな反論もあるかと思  
います。しかし、ここで立ち止まってみたい  
のです。共同体には限界があるということ  
に。

自分の日常にはないものを、どこかに求  
めつつけること。ないからこそ、求めつつ  
けること。わたしたちは、そんなくりかえ  
しのなかで、どこにもない何か、へここで

はないどこかへを求めてしまう。それはわ  
たしたちに希望を与えてくれると同時に、  
再三、指摘されてきたように、宗教のもし、  
まやかしてもありうるのです。

合衆国の政治学者であり、フェミニスト  
であるアイリス・マリオン・ヤングはこん  
なことを述べています。

コミュニティという理想が特権化するの  
は、差異よりも統一、媒介することよりも  
直接的であること、他者への理解には限界  
があると認識するよりも同情、である。そ  
れは説明のたやすい夢であるし、また、誰  
にも隠すことのない自分自身や、おたがい  
の同一化に基づいた関係、社会的に親密で  
あることや快適であることへの欲望を表し

ているものである。

iris marion yong, 1989, "The Ideal of Community and  
the Politics of Difference," Linda J.  
Nicholson, ed., *Feminism / Postmodernism*,  
Routledge.)

ひとつの共同体の「仲間」であると思念  
することは心地の良い安定感をわたしたち  
にもたらすかもしれません。しかし、その  
想念はわたしたちの欲望を投影した夢にす  
ぎないとヤングは述べるのです。それは女  
たちの闘いのなかで、お互いのちがいが消  
し去られてしまうことへの抵抗でした。ヤ  
ングにとつて、共同体は、それぞれのちが  
いが抑圧されると同時に、ちがいによる排  
除によって成立する空間です。それでもな  
お、ちがいを超えて、ぬきさしならない境  
界線を超えて、つながりを模索していくた  
めに、ヤングもまた言葉を紡ぎつづけたの  
ですが。

ルカ福音書の著者は、イエスの宣教活動  
の道備えを演出するために洗礼者ヨハネの  
物語を位置づけました。そのような位置づ  
けを超えて、わたしたちは「いま・ここ」  
で洗礼者ヨハネの物語をどのように読むこ  
とができるのでしょうか。そこから、わた  
したちは、あるべき教会の姿を考えるきつ  
かけ、あるいは出発点を与えられているの  
ではないでしょうか。

## まど

▼教会にはさまざまな人びと  
が訪れます。ほかの教会で対  
応できなかった出来事も降っ  
てきます。そう、ここは寿地  
区。人や出来事がさまざまな  
場から押し流され、たどつていく  
場所のようです。たいがいはパニック  
になりながら右往左往していますが、  
時には「解決」に結びつくことがある  
のです。先は見えずとも大きな喜びで  
す。「必要なマナは空から降ってくる」  
とおっしゃったのは教会のTさん。ワ  
タクシごとですが中学高校の何十年か  
(?)上の大先輩です。Tさんのセリフ、  
文脈はまったく異なるのですが、出会

いの大切さをかみしめています。

▼相変わらず、たくさんある寿地区の  
活動のほんの少しに触れ、中途半端に  
かわりながら過ごしています。そん  
ななか、まちの外から教会にやってく  
る出来事の対応に困ったとき、駆け込  
む場所があります。そう、ここは寿地  
区。走って生活館へ。寿日雇労働者組  
合の事務所に向かいます。Kさんと  
Yさんに傾聴してもらったり、アドバ  
イスをいただいたり。心より感謝しつづ  
く。厄介な新参者のわたしはこれからも力  
強い先輩たちに頼つていこうとそっと  
思っているところです。

(堀江有里)

## 編集後記

年末の越冬で初めて夜パトに参加  
した。関内駅の高架下で一人のおじ  
さんと出会う。その出合いをきつ  
けにして、私の元旦の予定は変えら  
れ、おじさんに会いに関内駅へ通う  
ことになる。迷いつつも、「無力だけ  
ど無意味じゃない」の一文に背中を  
押されている。  
(祐子)